

第3回 パーソナル・ファイナンス・テストの 結果に関する予備的考察

山岡道男^{†1}・浅野忠克^{†2}・阿部信太郎^{†3}

A Preliminary Analysis of Student's Personal Financial Literacy on the Third Test Administration in Japan

Michio Yamaoka, Tadayoshi Asano, Shintaro Abe

In 2014 and 2015 the comprehensive personal financial test was administered by our research group for high school and university students in Japan so as to find out how well they understand personal financial concepts and also obtain students' scores to compare them with those at the same tests administered in 2003–2004 and 2010–2011.

This test was originally developed by Professor William Walstad (University of Nebraska-Lincoln) and Professor Ken Rebeck (Saint Cloud State University) in USA. With permission of the authors, we translated it to make the Japanese version of the test at the high school level, adapting its contents and contexts to the Japanese financial system, customs and practices.

From our analysis of the results of this third test, we can conclude that there are some differences in the average score of correct responses to test questions between high school and university students. However at the last two tests, students achieved almost the same score of correct responses between high school and university. At the third test, high school students scored lower points than those at the last two tests and university students scored higher points than those at them. Looking into the students' scores of each individual test question, they showed the same answer patterns, though there were a little difference in correct responses between high school and university students and also among the results of the three tests.

はじめに

本稿は、高校生と大学生のパーソナル・ファイナンスに関する知識と理解度を測定するために実施したテスト結果を分析すると同時に、これまで、同じ問題を用いて過去2回にわたり実施したテスト結果と比較検討するものである^(注1)。同テストは、米国での共同研究者であるウィリアム・ウォルスタッド教授（ネブラスカ大学リンカン校）とケン・リベック教授（セントクラウド州立大学）が開発したテスト問題集の中の高校生版を、開発者の許可を得たうえで、日本語に翻訳したものである^(注2)。しかし、米国と日本で金融システムや金融事情が異なることから、50問の設問中の約3分の1はテスト問題の意図と趣旨は変えずに、日本にも適合するように変更したために、米国でのテスト結果の

^{†1} 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授

^{†2} 元・山村学園短期大学准教授、早稲田大学アジア太平洋研究センター特別センター員

^{†3} 城西国際大学准教授、早稲田大学アジア太平洋研究センター特別センター員

データとは、直接的には比較出来ないものもある^(注3)。本稿では、第3回の同テストに関して、まず単純集計した高校生と大学生のテスト結果を明らかにし、次に、過去2回のテスト結果と比較検討する。

第1章 テストの実施時期と問題の分類について

表1には、日本の高校生と大学生を対象として、3回にわたり実施したパーソナル・ファイナンス基礎テストの関連データが示されている。そこには、①テストを実施した高校・大学の「学校数」、②テストに参加した生徒・学生の「人数」、③50問の設問に対する「平均得点(点)」、④50問に対する「平均正答率(%)」が表示されている。今回の第3回テストは、2014年7月から2015年2月にかけて実施したが、第1回は2003年9月より2004年6月までが実施時期であり、そこには約10年間の隔りがある。またその中間の第2回テストの実施は、2011年4月より2013年の2年間であり、そのため、これら3つのテスト結果のデータは、約10年間にわたる経年調査の結果となっている。これらの内容に関しては、次章と第3章で解説する。

表1 3回のパーソナル・ファイナンス基礎テストについて

	高校生			大学生		
	第1回	第2回	第3回	第1回	第2回	第3回
学 校 数	10	2	4	13	6	7
人 数	1,434	301	247	1,074	528	474
平均得点(点)	28.6	29.4	23.3	28.6	28.3	32.2
平均正答率(%)	57.3	59.1	46.6	57.2	58.3	64.4

表2に示されているように、同テストに含まれる設問数は50個であり、そのすべてが4つの解答選択肢から最適解(正答)を1つ選択する4択問題(多項選択式問題)である。同表では、各設問に対して問題内容が容易に推測できるように、「キーワード」という欄を設けてある。また50問は、10問ずつ、下記の5つのテーマ(学習内容)に分類されている。それらは、①経済についての基本的な考え方：合理的な意思決定(以下、経済的思考方)、②所得を得ること：教育は自分への投資(以下、所得)、③貯蓄：明るい未来のために(以下、貯蓄)、④支出とクレジット：クレジットは借金(支出)、⑤金銭管理：家計とリスク・マネジメント(以下、金銭管理)の5つである。

高校生と大学生の設問別正答率とその間の差は、数値(%)として、表2の中央欄に記されている。それらに関しては、次章で分析する。

第2章 高校生と大学生の正答率の分析

本章では、今回収集した高校生と大学生の設問別正答率のデータと、学習内容のテーマ別データを用いて、まず高校生と大学生のそれぞれの正答率を、次に両者の差について検討する。

(1) 高校生の設問別正答率について

設問数が50問ある本テストにおいて、高校生の正答率を10%刻みで見ると、10～19%台は4問、

20～29%台は7問、30～39%台は8問、40～49%台は8問、50～59%台は10問、60～69%台は6問、70～79%台は6問、80～89%台は1問となっている。この平均正答率の分布は、表4（テーマ別の正答率分布【高校生】）を見れば、より分かりやすくなっている。

平均正答率が特に低かった10%台の設問は、①設問1の「高額所得者」、②設問3の「機会費用」、③設問26の「流動性」、④設問38の「クレジットカードの盗難」の4問である。後に述べるが、これら4問は、大学生も同様に正答率が低い設問でもある。他方、正答率が80%台であった唯一の設問は、設問12の「ハローワーク」に関するものである。

(2) 大学生の設問別正答率について

同様に、大学生の正答率を10%刻みで見ると、10～19%台は2問、20～29%台は4問、30～39%台は3問、40～49%台は4問、50～59%台は5問、60～69%台は8問、70～79%台は6問、80～89%台は12問、90～99%台は6問となっている。全体的に、高校生と比べると、正答率の分布が高い方へ集中していることが分かる。それは、高校生にはない90%台の正答率が6問あることから明らかにである。それらは、テーマ①「経済的考え方」の設問7「高校中退」と設問9「人的資源」の2問や、テーマ②「所得」に属する設問11「就職」、設問13「就職面接」、設問14「起業家」、設問17「教育と所得」の4つである。また、正答率の低い10%台の設問は、設問3「機会費用」と設問26「流動性」の2つであり、この2問は、高校生の場合も正答率が低かった設問である。

(3) 高校生と大学生の差

高校生と大学生の正答率の差を、表2の「得点差」欄を用いて比較検討する。まず、高校生と大学生の設問別正答率の解答傾向をみると、かなり似通っているように思われる。つまり、高校生の正答率が高い設問は大学生も高く、反対に高校生の正答率が低い設問は大学生も低いという傾向である。これを、以下で検証する。

正答率の差の分析に入る前に特記すべきことは、総数50問のうち5問では、若干ではあるが、高校生の方が高い正答率であったことである。それらは、設問3「機会費用」（－0.7%：大学生から高校生の正答率を引いた両者の差）、設問10「意思決定」（－7.9%）、設問26「流動性」（－3.4%）、設問34「信用情報機関」（－10.1%）、設問48「保険の免責」（－2.0%）の5つである。それらはどれも、高校生と大学生の正答率がともに低い設問であった。

次に、高校生と大学生の設問別正答率の差をみると、9%ポイント未満は4問、10～19%ポイントは17問、20～29%ポイントは20問、30～39%ポイントは4問ある。この30%ポイントを超える4問は、設問18「手取り」（31.4%ポイント）、設問30「投資判断基準」（34.5%ポイント）、設問36「金利とリスク」（31.6%ポイント）、設問46「自動車保険」（30.2%ポイント）である。また、正答率の差が9%ポイント以下と小さい4問は、設問2「資産状況改善」（3.0%ポイント）、設問24「72の法則」（8.5%ポイント）、設問38「クレジットカードの盗難」（8.8%ポイント）、設問47「自賠責保険」（9.9%ポイント）である。

第3章 3回のテストの設問別正答率について

(1) 3回のテストの平均正答率の比較

表3には、第1回と第2回のテストの設問別正答率も載せられており、同表の内容を可視的に示し

たのが、表4（高校生版）と表5（大学生版）である。この過去2回のテストでは、高校生と大学生の得点差はほとんどなく、また設問別でも、同じ解答傾向がみられた。

まず平均得点でみると、高校生の場合は、第1回が57.3点、第2回が59.1点とそれほど差（1.8%ポイント）はないが、今回の第3回は46.6点であるので、その差は第2回と比べると12.5%ポイントで、設問数にすると、50問中で約6問多く不正解となっている。それに対して大学生は、第1回（57.2点）と第2回（58.3点）では1.1%ポイントの差しかなかったが、今回の第3回と前回の第2回を比較すると、その差は6.1%ポイントであるので、設問数では今回は3問より多く正解できたことになる。

個別の選択肢でみると、第3回テストの高校生の場合は、50問中で正答率が50%未満の設問数は、過半数を超える26問であるのに対して、大学生の場合は、高校生の半数の13問である。

（2）第2回と第3回のテストの設問別正答率の比較

次に、高校生と大学生の過去2回のテスト結果と今回を比べると、過去2回のテストでは、高校生も大学生もテスト結果はほぼ同じであったのに対して、今回の第3回では、高校生と大学生の間で約20%ポイント、つまり50問中その2割の10問が、高校生の方が低かったという結果が得られた。

個別の設問に関して、第2回（59.1%）と第3回（46.6%）を比較すると、高校生の場合、平均正答率で12.5%ポイントの差があるが、8つの設問で第3回の正答率の方が高かった。それらは、設問1「高額所得者」（0.8%ポイント）、設問3「機会費用」（5.3%ポイント）、設問10「意思決定」（0.9%ポイント）、設問19「社会保障」（6.7%ポイント）、設問32「取引の便益」（3.2%ポイント）、設問34「信用情報機関」（0.1%ポイント）、設問47「自賠償保険」（2.9%ポイント）、設問48「保険の免責」（5.6%ポイント）であり、どれも大きな差はないものであった。

他方、大学生の場合は、第2回（58.3%）と第3回（64.4%）では、平均正答率の差は6.1%ポイントであるが、次の6問は、第2回の方が若干ではあったが高かった。それらは、設問10「意思決定」（1.0%）、設問26「流動性」（7.1%）、設問33「信用度」（0.5%）、設問38「クレジットカードの盗難」（2.6%）、設問48「保険の免責」（0.5%）である。

次に、第2回と第3回の設問別の正答率の差を検討する。まず高校を取り上げると、平均正答率の差は12.5%ポイントであるが、その中で第2回の方が高かった8問を除いた42問についてみる。まず、差が9%ポイント以下の設問は8問、10～19%ポイントの設問は24問、20～29%ポイントの設問は9問、30～39%ポイントの設問は1問であった。最大の差がある設問33は、「信用度」に関するものである。

大学生の場合、第2回と第3回の平均正答率の差は、高校生の場合の半分の6.1%ポイントである。また、設問別にみると、全体の4分の3の32問は9%ポイント未満の差であり、残りの12問は10～19%ポイントの範囲であるので、全体的に、それぞれの設問の正答率が上昇したことになる。

第4章 選択肢別解答率について

表6と表7は、それぞれ高校生と大学生の選択肢別解答率である。各設問は、4つの選択肢の中から1つの最適解（正答）を選ぶ方式であるので、1つの設問に4つの数値がある。

(1) 高校生の場合

まず高校生の表6を取り上げると、平均正答率は46.6%であるので、50%以下の設問を数えると、半数以上の27問となる。その中で、正答率が3つの誤答率を上回る設問は12問ある。また、1つの誤答率が正答率を上回る設問は10問あり、さらに、2つの誤答率が正答率を上回る設問は5問あった。その5問を以下で取り出し、4つの選択肢への解答率(%)を付加する。なお、★印のある選択肢が正答であり、参考までに、各選択肢の後に、1番目の数値で高校生の解答率、2番目の数値で大学生の解答率を示す。

1. 一般的に日米の高額所得者に関して正しいのは、次のどれか。

① 相続した財産から所得の大部分を得ている。(47.0, 45.1)

★② 週当たり40時間以上働いている。(19.8, 30.4)

③ スポーツや芸能界のような華やかな仕事をしている。(30.4, 21.9)

④ リスクを嫌って新しいビジネスは避けている。(2.8, 2.3)

3. ルイは、3つの商品を次の順序で気に入っている。〈第1位〉CDプレーヤー、〈第2位〉コンピュータゲーム、〈第3位〉トレーナー。それぞれの商品の価格は5,000円である。ルイは、最も欲しかったCDプレーヤーを買った。この場合の彼の機会費用は、

① トレーナー (5.3, 1.9)

② CDプレーヤー (41.3, 25.5)

★③ コンピュータゲーム (11.7, 11.0)

④ トレーナーとコンピュータゲーム (41.3, 61.0)

26. 流動性リスクが一番高い投資は、

★① 不動産 (15.4, 12.0)

② 投資信託 (19.4, 11.6)

③ 銀行預金 (8.1, 9.1)

④ 株式 (55.5, 67.1)

44. 商品の購入にデビットカードを使うと、商品の代金は預貯金口座から、

① 1か月後に引き落とされる。(33.6, 24.1)

★② その場で引き落とされる。(24.3, 43.7)

③ 数回に分けて引き落とされる。(26.3, 25.3)

④ いつ引き落とされるかは請求書がきた時に決める。(14.6, 6.3)

47. すべての自動車保有者が加入を義務づけられている自賠責保険(自動車損害賠償責任保険)では、被保険者(自動車の保有者と運転者)が事故を起こした結果、

① 被保険者が働けなくなったら、所得を補償する。(17.4, 9.1)

- ② 被保険者が働けなくなったら、一定の期間のみ所得を補償する。(25.9, 17.5)
- ③ 他人の財産に損害を与えたら、保険金が支払われる。(34.8, 40.9)
- ★④ 他人を死傷させ法律上の賠償責任を負ったら、保険金が支払われる。(21.1, 31.0)

上記の5つの問題をみると、設問1「高額所得者」の設問では、高額所得者のイメージが、相続や華やかな職業での所得にあるようにみえるが、実際は、ハードワークをする人であることを生徒や学生は知らない。設問3「機会費用」は、機会費用という基礎的経済概念を教わっていないために、正答にたどり着けなかったようである。設問26「流動性」の設問では、流動性という概念が分からず、投資リスクと勘違いをしたようである。設問44「デビットカード」の設問では、このカードの意味が分からず、正答率が低かったと思われる。設問47「自賠責保険」では、これも自賠責の意味が分からなかったのもので、低い正答率となっている。これらの5問は、一度クラスで学べば簡単に答えられる設問である。従って、テストを実施した時点で理解していなくても、授業で学べば容易に正しく解答できる内容である。

(2) 大学生の場合

表7で大学生の平均正答率をみると、全体の平均正答率は64.4%であり、正答率が50%以下の設問は15問となる。その中で、正答率が3つの誤答率を上回る設問は4問ある。また、1つの誤答率が正答率を上回る問題は9問あり、さらに、2つの誤答率が正答率を上回るケースは1問ある。その1問とは、高校生についても出てきた設問3「機会費用」の設問である。この機会費用の概念は、日本では高校でも大学でも教えられていないと思われるので、低い正答率となったようである。

また、先に高校生の場合に示したように、①高校生と大学生の解答傾向は、正答率だけでなく、3つの誤答率も似通っていること、②ここでは示されていないが、過去2回のテストにおける個別の設問の平均正答率でも、同様の傾向がみられたことを指摘できる。

おわりに

本稿では、米国の高校生向けに作成されたパーソナル・ファイナンスに関する理解度を測定するためのテスト問題を用いて、日本の高校生と大学生に対してテストを実施し、その結果に関して分析した。今回のテストは、第1回の2003年、第2回の2010年に続く第3回であったが、この間のパーソナル・ファイナンスに関する理解度は、テスト結果を見る限り、それほど改善したようには思えなかった。第1回と第2回の場合、高校生と大学生の理解度の差はほとんどなかったが、今回は、高校生と大学生の間に若干の差が生まれた。また、3回のテスト結果の個別問題を見ると、大学生と高校生の間で正答率に差があり、また10年間の時間的な経過があったが、同じような解答傾向が見られた。

今回の理解度の差は、テストに参加した高校生と大学生のサンプル数によるものかどうかは不明であるが、同じ解答傾向を見ると、この10年間で、顕著な改善は見られなかったことは明らかである。この原因に関しては、後日の検討課題としたい。

注

- (注1) 同テストの第1回は、「第6回生活経済テスト（パーソナル・ファイナンス基礎テスト）」と命名したが、今回は「パーソナル・ファイナンス基礎テスト」とした。本稿では、以下において、PF基礎テストと表記する。第1回と第2回のテスト結果に関する分析は、下記の拙論に掲載されている。
- 山岡道男・浅野忠克・阿部信太郎・猪瀬武則・山田幸俊・新井明・保立雅紀・下村和平「パーソナル・ファイナンス教育：第6回生活経済テストの作成と結果」、『経済教育』第24号，経済教育学会，2005年9月，114～119頁
- 浅野忠克「パーソナル・ファイナンスに関する高校生の知識について：日米比較を中心に」、『山村学園短期大学紀要』第17号，山村学園短期大学，2006年3月，1～39頁
- 浅野忠克「パーソナル・ファイナンスに関する高校生の知識と現状」、『TSE教育ホットライン』第75号（2005/9/8号），第76号（2005/9/16号），東京証券取引所，2005年9月
- 山岡道男・稲葉敏夫・浅野忠克・阿部信太郎・高橋桂子「2回のパーソナル・ファイナンス・リテラシー調査に関するテスト結果の比較について」、『早稲田教育評論』第27号，早稲田大学教育総合研究所，2013年3月，49～65頁
- 阿部信太郎，山岡道男，浅野忠克，高橋桂子「日本のパーソナル・ファイナンス・リテラシーの現状と課題：高校生と大学生及び2時点間の比較分析」、『経済教育』第32号，経済教育学会，2013年9月，164～172頁
- (注2) Walstad, William B., and Ken Rebeck, *Financial Fitness for Life: High School Test Examiner's Manual, Grades 9-12*, National Council on Economic Education (NCEE), 2005. なお，全米経済教育協議会（NCEE）は，2009年より，経済教育協議会（CEE：Council for Economic Education）と改称した。
- (注3) 参考文献として，日本語版のテスト問題（参考資料1）と正答一覧（参考資料2）を，本稿の末尾に添付する。

付記

本稿は，科学研究費補助金 基盤研究（B）「高校生の経済・金融リテラシーの測定と公民科教員の属性・特徴に関する研究調査」（JSPS 科研費 25285252）の研究成果の一部である。また，パーソナルファイナンス学会教育部会の調査研究活動の一環として，データの収集を行った。ご協力頂いた先生方に，ここに記して感謝申し上げる。

表2 設問の項目とキーワード

設問番号	キーワード	高校生 (N=247)	大学生 (N=474)	得点差	テーマ分野別 正答率(高校生)	テーマ分野別 正答率(大学生)
1	高額所得者	19.8	30.4	10.6	テーマ1 1～10 経済についての基本的な考え方: 合理的な意思決定	
2	資産状況改善	76.1	79.1	3.0		
3	機会費用	11.7	11.0	-0.7		
4	自動車保険	70.0	86.1	16.1		
5	フリーランチ	61.9	80.8	18.9		
6	選択	55.1	79.5	24.4		
7	高校中退	74.5	91.4	16.9		
8	希少性	42.5	68.6	26.1		
9	人的資源	71.3	91.1	19.8		
10	意思決定	32.4	24.5	-7.9	51.5	64.3
11	就職	77.3	91.4	14.1	テーマ2 11～20 所得を得ること: 教育は自分への投資	
12	ハローワーク	81.0	93.7	12.7		
13	就職面接	68.0	89.9	21.9		
14	起業家	66.8	91.4	24.6		
15	人的資本	57.5	81.9	24.4		
16	労働需要	57.1	69.6	12.5		
17	教育と所得	71.3	90.1	18.8		
18	手取り	54.7	86.1	31.4		
19	社会保険	54.7	70.3	15.6		
20	給与明細	64.0	81.9	17.9	65.2	84.6
21	機会費用	26.7	51.5	24.8	テーマ3 21～30 貯蓄: 明るい未来のために	
22	複利	28.3	47.9	19.6		
23	貯蓄	42.5	64.6	22.1		
24	72の法則	20.6	29.1	8.5		
25	市場価格リスク	53.8	80.8	27.0		
26	流動性	15.4	12.0	-3.4		
27	リスクとリターン	46.2	66.5	20.3		
28	実質利回り	25.9	46.2	20.3		
29	株主	33.6	44.3	10.7		
30	投資判断基準	47.4	81.9	34.5	34.0	52.5
31	クレジット	69.6	89.5	19.9	テーマ4 31～40 支出とクレジット: クレジットは借金	
32	取引の便益	30.0	50.0	20.0		
33	信用度	58.7	84.8	26.1		
34	信用情報機関	30.8	20.7	-10.1		
35	返済期間と額	37.7	54.9	17.2		
36	金利とリスク	28.7	60.3	31.6		
37	ローンのコスト	31.2	59.1	27.9		
38	クレジットカードの盗難	18.2	27.0	8.8		
39	悪質商法	58.7	85.4	26.7		
40	ローン	43.7	68.8	25.1	40.7	60.1
41	可処分所得	30.0	50.0	20.0	テーマ5 41～50 金銭管理: 家計とリスク・マネジメント	
42	純資産	51.0	73.8	22.8		
43	貯蓄	64.8	88.2	23.4		
44	デビットカード	24.3	43.7	19.4		
45	預金口座	51.0	79.7	28.7		
46	自動車保険	47.0	77.2	30.2		
47	自賠責保険	21.1	31.0	9.9		
48	保険の免責	36.0	34.0	-2.0		
49	車両保険	44.9	69.0	24.1		
50	終身保険	46.2	60.3	14.1	41.6	60.7
全体		46.6	64.4	17.8		

第3回パーソナル・ファイナンス・テストの結果に関する予備的考察

表3 高校生と大学生の設問別正答率の比較

(単位: %)

設問番号	日本の高校生			日本の大学生		
	第1回 n=1,434	第2回 n=301	第3回 n=247	第1回 n=1,074	第2回 n=528	第3回 n=474
1	23.8	19.0	19.8	27.1	26.5	30.4
2	79.5	87.0	76.1	79.4	76.1	79.1
3	13.5	6.4	11.7	14.2	9.6	11.0
4	85.1	87.3	70.0	85.2	83.9	86.1
5	71.6	72.7	61.9	67.6	76.0	80.8
6	62.3	67.7	55.1	61.8	75.2	79.5
7	81.6	91.3	74.5	87.5	86.2	91.4
8	50.1	55.4	42.5	50.7	58.3	68.6
9	77.7	78.9	71.3	80.2	85.5	91.1
10	31.6	31.5	32.4	28.4	25.5	24.5
11	89.5	90.3	77.3	93.5	88.9	91.4
12	86.6	95.7	81.0	90.2	90.6	93.7
13	70.4	81.7	68.0	75.8	85.0	89.9
14	80.9	85.3	66.8	77.1	87.5	91.4
15	65.1	69.0	57.5	66.8	75.1	81.9
16	59.3	63.5	57.1	47.0	57.6	69.6
17	81.3	89.7	71.3	76.8	83.7	90.1
18	73.2	77.3	54.7	79.5	79.5	86.1
19	48.8	48.0	54.7	59.7	54.7	70.3
20	77.5	80.7	64.0	77.4	75.0	81.9
21	36.1	36.6	26.7	33.4	39.4	51.5
22	45.3	40.3	28.3	32.0	31.1	47.9
23	48.2	53.7	42.5	42.3	50.4	64.6
24	28.3	25.6	20.6	26.2	24.6	29.1
25	78.1	82.3	53.8	76.3	79.4	80.8
26	19.5	18.1	15.4	18.4	19.1	12.0
27	63.8	63.9	46.2	56.2	59.6	66.5
28	32.0	35.7	25.9	25.3	34.0	46.2
29	43.8	47.7	33.6	41.1	38.6	44.3
30	67.9	69.9	47.4	64.1	69.7	81.9
31	83.9	92.3	69.6	84.4	80.6	89.5
32	31.4	26.8	30.0	38.4	37.4	50.0
33	86.9	88.7	58.7	88.4	85.3	84.8
34	32.7	30.7	30.8	33.3	25.5	20.7
35	51.8	47.0	37.7	52.1	41.8	54.9
36	49.8	51.2	28.7	49.4	50.9	60.3
37	44.4	42.8	31.2	47.7	56.1	59.1
38	24.8	24.0	18.2	26.9	29.6	27.0
39	84.0	87.0	58.7	74.7	79.1	85.4
40	69.2	62.9	43.7	73.5	66.5	68.8
41	44.1	45.7	30.0	44.5	43.9	50.0
42	66.2	69.3	51.0	60.3	66.5	73.8
43	82.1	85.3	64.8	81.8	78.5	88.2
44	34.2	37.0	24.3	34.6	39.3	43.7
45	70.0	74.5	51.0	70.5	70.6	79.7
46	59.2	67.6	47.0	67.7	66.2	77.2
47	25.9	18.2	21.1	33.2	23.3	31.0
48	34.7	30.4	36.0	33.3	34.5	34.0
49	58.3	56.9	44.9	57.0	57.9	69.0
50	60.8	64.8	46.2	64.3	56.7	60.3
平均	57.3	59.1	46.6	57.2	58.3	64.4

表 4 テーマ別の正答率分布 (高校生)

テーマ	標本の種類	正答率の範囲										平均 (%)
		0～9%	10～19%	20～29%	30～39%	40～49%	50～59%	60～69%	70～79%	80～89%	90～100%	
経済的考え方	第1回目 2003－04年			3	1	10		8	6	2,5,9	4,7	57.7
	第2回目 2010－11年	3	1			10		8	6	5,9	2,4	7
	第3回目											
	2014－15年		1,3			10	8	6	5		2,4,7,9	51.5
所得の稼得	第1回目 2003－04年						19	16	15	13,18,20	11,12,14,17	73.3
	第2回目 2010－11年						19		15,16	18	13,14,17	11,12
	第3回目							15,16,18	13,14,20	11,17	12	65.2
	2014－15年							19				
貯蓄	第1回目 2003－04年		26	24	21,28	22,23,29			27,30	25		46.3
	第2回目 2010－11年		26	24	21,28	22,29	23	27,30		25		47.4
	第3回目		26	21,22,24	29	23,27,30	25					34.0
	2014－15年			28								
支出とクレジット利用	第1回目 2003－04年			32,38	34	36,37	35	40		31,33,39		55.9
	第2回目 2010－11年			32,38	34	35,37	36	40		33,39	31	55.3
	第3回目		38	36	32,34,35	40	33,39	31				40.7
	2014－15年				37							
金銭管理	第1回目 2003－04年			47	44,48	41	46,49	42,50	45	43		53.6
	第2回目 2010－11年		47		44,48	41	49	42,46,50	45	43		55.0
	第3回目			44,47	41,48,49	46		42,45	43			41.6
	2014－15年				50							

注 1：表中の数字は設問番号を表わす。

注 2：標本数は、第 1 回目は n=1,434、第 2 回目は n=301、第 3 回目は n=247。

表5 テーマ別の正答率分布 (大学生)

テーマ	標本の種類	正答率の範囲										平均 (%)
		0～9%	10～19%	20～29%	30～39%	40～49%	50～59%	60～69%	70～79%	80～89%	90～100%	
経済的考え方	第1回目 2003-04年		3	1,10			8	5,6	2	4,7,9		58.2
	第2回目 2010－11年	3		1,10			8		2,5,6	4,7,9		60.3
	第3回目		3	10	1			8	2,6	4,5	7,9	64.3
	2014-05年											
所得の稼得	第1回目 2003-04年					16	19	15,13,14,17,18			11,12	74.4
	第2回目 2010－11年						16,19		15,18,20	1,13,14,17	12	77.8
	第3回目							16	19	13,15,18	11,12,14	84.6
	2014-05年									20	17	
貯蓄	第1回目 2003-04年		26	24,25	21,22,24	23	27	30	25			41.5
	第2回目 2010－11年		26	24	21,22,28		23,27,28	30	25			44.6
	第3回目			24,26		22,28,29	21	23,27		25,30		52.5
	2014-05年											
支出とクレジット利用	第1回目 2003-04年			38	32,34	36,37	35		39,40	31,33		56.9
	第2回目 2010－11年			34,38	32	35	36,37	40	39	31,33		55.3
	第3回目			34,37			32,35,37	36,40		31,33,39		60.1
	2014-05年											
金銭管理	第1回目 2003-04年				44,47,48	41	49	42,46,50	45	43		54.7
	第2回目 2010－11年			47	44,48	41,46	49,50	42	43,45			53.7
	第3回目				47,48	44	41	49,50	42,45,46	43		60.7
	2014-05年											

注1：表中の数字は設問番号を表わす。

注2：標本数は、第1回目はn=1,074、第2回目はn=528、第3回目はn=474。

表6 高校生の選択肢別解答率 (N=247)

設問番号	1	2	3	4
1	47.0	19.8	30.4	2.8
2	6.1	14.6	76.1	3.2
3	5.3	41.3	11.7	41.3
4	70.0	11.3	7.7	10.1
5	6.1	15.0	16.2	61.9
6	6.1	6.5	32.4	55.1
7	74.5	6.9	11.7	6.9
8	17.8	25.1	42.5	13.8
9	7.7	71.3	7.7	13.4
10	8.5	13.0	46.2	32.4
11	77.3	8.9	8.1	5.7
12	3.2	6.1	9.7	81.0
13	6.9	8.5	68.0	16.6
14	10.1	66.8	14.2	8.9
15	14.2	57.5	14.6	13.4
16	16.6	14.6	57.1	11.7
17	71.3	8.5	10.5	9.7
18	14.2	10.1	21.1	54.7
19	12.1	25.5	54.7	7.7
20	64.0	15.8	10.9	8.9
21	10.9	23.9	26.7	38.1
22	17.4	26.3	27.5	28.3
23	16.2	30.8	10.5	42.5
24	20.2	20.6	46.2	12.6
25	13.4	53.8	19.0	13.0
26	15.4	19.4	8.1	55.5
27	11.3	46.2	19.4	23.1
28	25.9	19.0	44.1	10.5
29	33.6	19.4	39.3	7.3
30	13.8	23.5	47.4	15.4
31	6.5	13.8	9.3	69.6
32	43.3	14.6	30.0	11.7
33	10.5	58.7	21.1	9.3
34	12.1	30.8	30.8	25.5
35	37.7	39.7	11.7	10.5
36	29.6	26.3	28.7	15.0
37	15.0	31.2	16.2	36.8
38	18.2	43.3	13.4	24.7
39	6.5	11.3	22.7	58.7
40	16.2	13.8	24.3	43.7
41	32.0	25.5	30.0	11.3
42	12.6	15.4	20.2	51.0
43	13.4	64.8	10.9	9.7
44	33.6	24.3	26.3	14.6
45	19.4	15.0	51.0	13.4
46	47.0	19.4	19.0	13.8
47	17.4	25.9	34.8	21.1
48	16.2	36.0	36.0	10.9
49	44.9	16.2	19.0	18.6
50	13.0	46.2	14.6	23.5

表7 大学生の選択肢別解答率 (N=474)

設問番号	1	2	3	4
1	45.1	30.4	21.9	2.3
2	2.5	15.8	79.1	2.3
3	1.9	25.5	11.0	61.0
4	86.1	4.2	2.7	6.5
5	1.7	5.9	11.2	80.8
6	1.9	1.7	16.5	79.5
7	91.4	1.9	4.0	2.5
8	9.7	13.1	68.6	8.4
9	2.3	91.1	2.5	3.6
10	8.2	14.6	52.3	24.5
11	91.4	4.0	1.9	2.3
12	2.5	1.5	2.1	93.7
13	0.6	2.5	89.9	6.8
14	2.1	91.4	5.7	0.6
15	5.3	81.9	5.7	6.8
16	15.4	6.3	69.6	8.0
17	90.1	2.5	3.6	3.6
18	2.7	2.3	8.2	86.1
19	6.8	20.0	70.3	2.3
20	81.9	10.3	4.9	1.9
21	3.8	9.1	51.5	35.4
22	15.0	18.4	18.6	47.9
23	7.0	25.3	2.7	64.6
24	13.5	29.1	47.7	8.2
25	3.0	80.8	10.3	5.7
26	12.0	11.6	9.1	67.1
27	5.7	66.5	9.5	17.9
28	46.2	11.4	31.0	10.5
29	44.3	8.9	44.9	1.5
30	4.2	9.5	81.9	4.0
31	2.3	4.9	3.2	89.5
32	42.6	4.0	50.0	3.2
33	2.7	84.8	8.4	3.8
34	9.5	58.6	20.7	10.5
35	54.9	38.8	3.2	3.0
36	15.2	13.1	60.3	11.2
37	9.3	59.1	7.4	24.1
38	27.0	45.6	7.8	18.8
39	2.5	2.1	9.7	85.4
40	8.2	8.4	13.9	68.8
41	28.7	14.1	50.0	6.5
42	3.8	9.9	11.8	73.8
43	7.4	88.2	3.2	0.8
44	24.1	43.7	25.3	6.3
45	7.4	5.1	79.7	7.0
46	77.2	6.3	10.3	5.5
47	9.1	17.5	40.9	31.0
48	8.2	49.8	34.0	7.0
49	69.0	6.1	11.6	12.2
50	12.9	60.3	9.3	15.8

注1：網かけは正答を示す。

参考資料1：テスト問題

パーソナル・ファイナンス基礎テスト

テーマ1 経済についての基本的な考え方：合理的な意思決定

1. 一般的に日米の高額所得者に関して正しいのは、次のどれか。
 - ① 相続した財産から所得の大部分を得ている。
 - ② 週当たり40時間以上働いている。
 - ③ スポーツや芸能界のような華やかな仕事をしている。
 - ④ リスクを嫌って新しいビジネスは避けている。
2. 生涯にわたって、多くの人々の資産状況を改善すると思われる方法は、
 - ① クレジットカードを使って、所得よりも多く支出すること
 - ② 直感力で、すばやく資産に関する意思決定をすること
 - ③ 所得を稼ぎ始めたら、なるべく人生の早い時期に貯蓄をすること
 - ④ 学校を続けないで、労働経験を早めに積むこと
3. ルイは、3つの商品を次の順序で気に入っている。〈第1位〉CDプレーヤー、〈第2位〉コンピュータゲーム、〈第3位〉トレーナー。それぞれの商品の価格は5,000円である。ルイは、最も欲しかったCDプレーヤーを買った。この場合の彼の機会費用は、
 - ① トレーナー
 - ② CDプレーヤー
 - ③ コンピュータゲーム
 - ④ トレーナーとコンピュータゲーム
4. マリは今年、昨年よりも保険料の高い自動車保険に加入した。彼女のこの決定が意味するのは、次のどれか。
 - ① より高い保険料の自動車保険から得られる便益は、費用より大きい。
 - ② より高い保険料の自動車保険は、彼女が事故にあう危険を減らす。
 - ③ より高い保険料の自動車保険は、彼女の貯金をより速く増やす。
 - ④ 彼女は、今後いっそう安全運転をする。

5. 経済学者は、無料のランチを食べたとしても本当は「無料のランチなんてない」と言う。この言葉が意味するのは、次のどれか。
- ① 無料のランチは詐欺であるが、避けることができない。
 - ② 希少資源は少ないので、そのために高価である。
 - ③ 社会ではなく個人が、資源（時間）の不足に直面している。
 - ④ ある目的のために使われた資源（時間）は、別の目的のために使うことができたはずである。
6. 次のうち、一般的に正しいのはどれか。
- ① 正しい選択には費用がかからない。
 - ② 人々は誘因（インセンティブ）に反応しない。
 - ③ 自発的な交換は、得する者と損する者を生む。
 - ④ 今、選択したことは将来に影響を及ぼす。
7. 高校を卒業しないで途中でやめる選択をする人もいる。その人にとって、高校中退にともなう費用（コスト：損失）として考えられるのは、
- ① 労働市場で得られる所得が低くなること
 - ② クレジットに課せられる金利が低くなること
 - ③ 高校を早くやめると税金が高くなること
 - ④ 高校中退者を雇う会社に対して補助金が支払われること
8. 資源の希少性から生じることは、
- ① 資源が完全に利用される。
 - ② 財・サービスの生産が一定になる。
 - ③ 人々は選択肢の中から選択をしなければならない。
 - ④ 豊富にある生産物は、相対的に高価格になる。
9. 人的資源と考えられるのは、
- ① 本社ビル
 - ② 工場労働者
 - ③ 電話帳
 - ④ 電気

10. 経済の問題について合理的な意思決定をする時の最初の3つのステップは、

- ① 結論の導出 → モデルの組立て → 一般化
- ② 仮定の確認 → 政策の立案 → 政策の評価
- ③ 事実の収集 → 理論の構築 → シミュレーションの実施
- ④ 問題の明確化 → 選択肢の列記 → 評価基準の確認

テーマ2 所得を得ること：教育は自分への投資

11. 就職の可能性を最も高める方法は、

- ① 適切で正確な応募書類を提出すること
- ② 採用者が要求する場合にのみ、履歴書を準備すること
- ③ 新聞の求人広告は避けること
- ④ 面接には目立つ服装で行くこと

12. 仕事を探したい時に行く先は、

- ① 職業訓練所
- ② 労働基準監督署
- ③ 地方労働委員会
- ④ ハローワーク

13. 就職面接の際に、採用者が応募者に対して質問しても許されるのは、次のどれか。

- ① あなたの両親の学歴は何か。
- ② あなたの信じる宗教は何か。
- ③ この仕事に関連するあなたの弱点は何か。
- ④ 労働組合運動をどう思うか。

14. 起業家の典型的な特徴は、

- ① パートタイムで働くことを好むこと
- ② 進んでリスクを引き受けること
- ③ 投資より貯蓄を好むこと
- ④ 誰かの下で働くことを好むこと

15. 人的資本を構成するのは、

- ① 株式と債券
- ② 知識と技能
- ③ 工場と設備
- ④ 貯蓄と投資

16. ソフトウェアのプログラマーに対する需要増加によって引き起こされることは、
- ① ソフトウェア価格の低下
 - ② ソフトウェアの供給の減少
 - ③ ソフトウェア・プログラマーの賃金の上昇
 - ④ ソフトウェア・プログラマーの失業の増加
17. 生涯所得に関する日本の統計によると、4年制大学を卒業して就職した者は3億2千万円、高校を卒業して就職した者は2億6千万円、中学を卒業して就職した者は1億8千万円、フリーターは6千万円である。これが意味することは、次のどれか。
- ① より高い教育を受ければ、より高い所得が期待できる。
 - ② 大学の学費負担を考えれば、高校卒業で就職する方が得である。
 - ③ フリーターの生涯所得は、その人が受けた教育レベルを反映している。
 - ④ 学校で受けた教育レベルと生涯所得の間には関係がない。
18. 給与総額と手取額の関係は、
- ① 手取額は、給与総額から貯蓄を差し引いたもの
 - ② 給与総額は、手取額から貯蓄を差し引いたもの
 - ③ 給与総額は、手取額から各種の控除額を差し引いたもの
 - ④ 手取額は、給与総額から各種の控除額を差し引いたもの
19. マリは正社員として、あるコンピュータ会社で働いている。彼女の社会保険料を負担するのは、
- ① マリだけ
 - ② 彼女の雇用主（会社）だけ
 - ③ 彼女と彼女の雇用主（会社）
 - ④ 政府
20. あるパート従業員が、日給5,000円で、月25日働いている。1ヵ月の控除額は、所得税が12,000円、住民税が5,000円、社会保険料が8,000円であるとする。この人の1ヵ月の手取額は、
- ① 100,000円
 - ② 108,000円
 - ③ 117,000円
 - ④ 125,000円

テーマ3 貯蓄：明るい将来のために

21. 預金についた利息を引き出さないまま、預金残高を複利で運用する場合の機会費用は、

- ① その年の税金が少なくなること
- ② 預金がなくなるリスクが増加すること
- ③ 現在の消費に使えるお金が少なくなること
- ④ 預金につく利息が増えること

22. ヨシキは銀行に口座を開設して 50,000 円を預金した。もし預金金利が年 5% の複利であり、また彼が追加の預金や引き出しをしないなら、2 年後の預金口座の額は、

- ① 50,500 円
- ② 55,000 円
- ③ 55,000 円未満
- ④ 55,000 円超

23. 金融の専門家は、若い頃から早めに貯蓄を始めることを勧める。その理由は、

- ① 所得を稼ぎ始めたばかりの頃は、貯蓄がより容易であるから
- ② 歳をとると、消費に回す所得が増えて貯蓄が難しいから
- ③ クレジットで買い物をする時に、より高い金利になるから
- ④ 利息に利息がついて、複利で有利な運用が可能になるから

24. 100,000 円を 7.2% の複利の預金口座に入れると、2 倍の 200,000 円になるのに要する年数は、

- ① 7.2 年
- ② 10.0 年
- ③ 14.4 年
- ④ 20.0 年

25. 株式投資をする際の「市場価格リスク」とは、

- ① 投資した株式を現金に換えることの困難さ
- ② 投資した株式の価値が、将来、減少する可能性のあること
- ③ 株式投資をした先からお金を取り返すことが不可能なこと
- ④ 株式から得られる配当がインフレ率より多分大きいこと

26. 流動性リスクが一番高い投資は、

- ① 不動産
- ② 投資信託
- ③ 銀行預金
- ④ 株式

27. リスクと収益（リターン）の間の一般的な関係は、次のどれか。

- ① リスクが高ければ高いほど、期待される収益は低くなることが見込まれる。
- ② リスクが高ければ高いほど、期待される収益は高くなることが見込まれる。
- ③ リスクの大きさは、期待される収益とは関係ない。
- ④ 両者に関係はあるが、明確ではない。

28. 投資の実質利回り（実質収益率）を計算する方法は、

- ① 名目利回りからインフレ率を差し引く。
- ② インフレ率から名目利回りを差し引く。
- ③ 年間利回りから名目利回りを差し引く。
- ④ 名目利回りから年間利回りを差し引く。

29. 普通株を持っている株主に与えられるのは、

- ① 会社を所有する権利の一部
- ② 年間の固定された金利
- ③ 年間の配当額の保証
- ④ 保険による投資の保護

30. お金を投資する時に、一般的に最も重要な3つの判断基準は、

- ① 投資額・保険・税金
- ② 借入資本の利用・利ざや・信用
- ③ リスク・収益率・換金性
- ④ 担保・口座の利便性・配当

テーマ4 支出とクレジット：クレジットは借金

31. クレジットが人々に与える利点の1つは、

- ① 資産の売却
- ② 純資産の増加
- ③ 株式投資のリスクの減少
- ④ 財・サービスの後払いでの購入

32. 一般的にローン（お金の貸し借り）の取引で便益を得るのは、
- ① 貸し手だけ
 - ② 借り手だけ
 - ③ 借り手と貸し手の両方
 - ④ 誰も便益を得ない
33. 銀行や信販会社等の貸し手が、家や自動車をローンで買う人の信用度を判断する時に、最も重要であると考え要素の組み合わせとは、
- ① 結婚しているかどうか・性別・年齢
 - ② 人物・担保・返済能力
 - ③ ローンの期間・信頼性・手数料
 - ④ 職業・縁故（コネ）・趣味
34. 個人信用情報機関がすることの1つは、
- ① 優良な消費者にクレジットの利用を広めること
 - ② クレジットの申し込みをした消費者を審査すること
 - ③ 消費者のクレジットの月々の支払記録を保有すること
 - ④ 多重債務を抱えている人に警告を与えること
35. もし借り手がローンの返済期間を延長することを選ぶと、毎月の返済額は、
- ① 少なくなり、返済する利息総額はより多くなる。
 - ② 多くなり、返済する利息総額もより多くなる。
 - ③ 少なくなり、返済する利息総額もより少なくなる。
 - ④ 多くなり、返済する利息総額はより少なくなる。
36. 個人に課される金利と、その人がローンを返済できなくなるリスクとの間の関係について正しいのは、
- ① 関係はあるが、金利は高くなるとも低くなるとも言えない。
 - ② 返済できなくなるリスクが低ければ低いほど、金利は高い。
 - ③ 返済できなくなるリスクが高ければ高いほど、金利は高い。
 - ④ 金利と返済できなくなるリスクとの間に関係はない。
37. 銀行ローンを借りた時のコスト（費用）を判断するための最適な指標は、
- ① 頭金の金額
 - ② 金利
 - ③ 返済回数
 - ④ 毎月の返済額

38. あなたのクレジットカードが盗難にあった。すぐにカード会社に連絡し警察に届け出たが、既に窃盗犯がカードを使って20万円の買い物をしてしまった。この場合に、使われた20万円の責任は一般的にどうなるか。
- ① カードの盗難についてすぐに連絡をしたので、あなたが20万円の支払いを要求されることはないだろう。
 - ② 無許可のカードユーザーである窃盗犯が捕まらなければ、あなたが20万円を支払わなければならないだろう。
 - ③ あなたは、5,000円だけ支払う必要があるだろう。
 - ④ カードはあなたの名前で発行されているので、あなたが20万円を支払わなければならないだろう。
39. 友人からもうけ話を持ちかけられた。まず自分が2万円の健康食品を買い、次に友人を3人誘って同じ健康食品を2万円で買ってもらう。さらにその友人には同じ健康食品を買う人を3人見つけてもらう。これを繰り返すと、あなたにはお金がどんどん入ってくると説明された。この種の問題取引は、
- ① 個人情報の窃盗
 - ② 架空請求
 - ③ アポイントメント商法
 - ④ マルチ商法
40. どの金融機関からの借入れ（ローン）が、一般的に最も高い金利を求められるか。
- ① 信用組合
 - ② 市中銀行
 - ③ 信用金庫
 - ④ 消費者金融会社

テーマ5 金銭管理：家計とリスク・マネジメント

41. 可処分所得とは、
- ① 給与から控除された金額である。
 - ② 変動費の支払いに備えた予算額である。
 - ③ 給与から控除額を除いた後の消費額と貯蓄額である。
 - ④ 毎月の投資額と貯蓄額である。

42. 家計の純資産が正（プラス）であるとは、

- ① 所得が貯蓄より少ないこと
- ② 資産が負債より少ないこと
- ③ 所得が貯蓄より多いこと
- ④ 資産が負債より多いこと

43. 将来に備えて家計管理を行う時、所得を使ってまず自分自身のためにすべきこととは、

- ① 家計にかなりゆとりができてから貯蓄を始めること
- ② 消費をする前に、貯蓄のためのお金を先にとっておくこと
- ③ 生活必需品への支出の前に、娯楽費への支出を先に済ませること
- ④ クレジットカードを使って、欲しかった高額商品を手に入れること

44. 商品の購入にデビットカードを使うと、商品の代金は預貯金口座から、

- ① 1か月後に引き落とされる。
- ② その場で引き落とされる。
- ③ 数回に分けて引き落とされる。
- ④ いつ引き落とされるかは請求書がきた時に決める。

45. 下は、ヒロアキの普通預金の記録である。

(円)

年月日	メ モ	お支払金額	お預り金額	差引残高
16-5-12	新規		500,000	500,000
16-5-15	振込（自動車会社へ）	100,000		
16-5-31	給料振込		200,000	
16-6-2	振込（ネット通販へ）			

ヒロアキがネット通販会社に 50,000 円を振込むと、彼の最新の口座残高（差引残高）はいくらか。ただし、預金の利息や振込手数料は考えないものとする。

- ① 450,000 円
- ② 500,000 円
- ③ 550,000 円
- ④ 600,000 円

46. 次の保険のうち、他人の自動車、建物、電柱等に損害を与えて法律上の損害賠償責任を負った時に、保険契約で規定された保険金が支払われるのは、
- ① 対物賠償保険
 - ② 対人賠償保険
 - ③ 自損事故保険
 - ④ 車両保険
47. すべての自動車保有者が加入を義務づけられている自賠責保険（自動車損害賠償責任保険）では、被保険者（自動車の所有者と運転者）が事故を起こした結果、
- ① 被保険者が働けなくなったら、所得を補償する。
 - ② 被保険者が働けなくなったら、一定の期間のみ所得を補償する。
 - ③ 他人の財産に損害を与えたら、保険金が支払われる。
 - ④ 他人を死傷させ法律上の賠償責任を負ったら、保険金が支払われる。
48. ヒカルは自動車（査定価額 700,000 円）をバックさせた時に、金属製のフェンスにぶつけてしまい 500,000 円の損失をこうむった。彼女の自動車保険では免責額が 200,000 円になっていた。自動車を修理すると、損害保険会社が支払う金額は、
- ① 0 円
 - ② 200,000 円
 - ③ 300,000 円
 - ④ 500,000 円
49. 自動車保険の中の車両保険では、
- ① 自動車が事故で破損した時に、保険金額の限度内で保険金が支払われる。
 - ② 保険契約者が事故で働けなくなった時に、所得を補償する。
 - ③ 保険契約者が他人の財産に与えた損害に対して、保険金が支払われる。
 - ④ 衝突・火災・盗難・台風による自動車の損害に対して、修理費が全額支払われる。
50. 生命保険の中の保障重視の終身保険は、
- ① 保険加入者が働くことができなくなった時に収入を保障する。
 - ② 死亡保障が一生涯続き、死亡した時に保険金が受け取れる。
 - ③ 一定期間内に死亡した時のみに保険金が受け取れる。
 - ④ 保険加入者の生活が健康的かどうかによって保障内容が異なる。

参考資料2：パーソナル・ファイナンス基礎テストの正答一覧

1	2	11	1	21	3	31	4	41	3
2	3	12	4	22	4	32	3	42	4
3	3	13	3	23	4	33	2	43	2
4	1	14	2	24	2	34	3	44	2
5	4	15	2	25	2	35	1	45	3
6	4	16	3	26	1	36	3	46	1
7	1	17	1	27	2	37	2	47	4
8	3	18	4	28	1	38	1	48	3
9	2	19	3	29	1	39	4	49	1
10	4	20	1	30	3	40	4	50	2